

製品名: サイクリン G ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09600**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	29kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNG1
別名	CCNG1; CCNG; CYCG1; Cyclin-G1; Cyclin-G
遺伝子 ID	900.0
SwissProt ID	P51959
免疫原	抗血清はヒトサイクリン G 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

背景

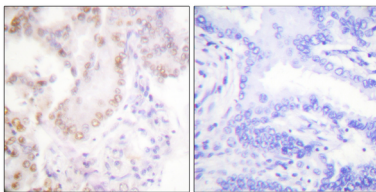
真核生物の細胞周期は、サイクリン依存性プロテインキナーゼ（CDK）によって制御されており、その活性はサイクリンおよび CDK 阻害剤によって制御されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質はサイクリンファミリーのメンバーであり、サイク

リンボックスを含みます。コードされるタンパク質には、他のファミリーメンバーに存在するタンパク質不安定化 (PEST) 配列がありません。この遺伝子の転写活性化は、腫瘍タンパク質 p53 によって誘導されます。この遺伝子については、同じタンパク質をコードする2つの転写バリエーションが特定されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、発生段階: 正常細胞では G1 期には非常に低いレベルですが、細胞が S 期に入ると増加し、S 期および G2/M 期を通じて高いレベルを維持します。乳がん細胞では、細胞周期を通じて一貫して高いレベルが見られます。機能: 成長制御に役割を果たす可能性があります。DNA 損傷に対する G2/M 期停止に関連しています。p53 が細胞増殖抑制剤としての役割を媒介する媒介因子である可能性があります。誘導: 乳がん細胞および前立腺がん細胞で活性化される。アクチノマイシン D 誘導性 DNA 損傷によって活性化される。類似性: サイクリンファミリーに属する。サイクリン G サブファミリー。細胞内局在: DNA 損傷後の DNA 複製巣。組織特異性: 骨格筋、卵巣、腎臓、結腸に高濃度で存在する。

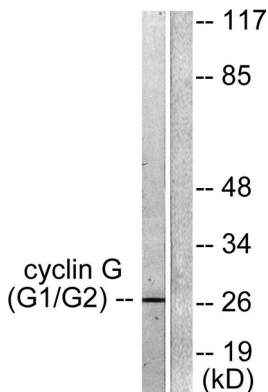
研究分野

p53;

画像データ



サイクリン G 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



サイクリン G 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈したサイクリン G ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。